

福岡県立美術館・福岡県青少年科学館・一般財団法人福岡県教職員互助会連携事業

平成25年度スクール・ミュージアム事業

アートコース活動記録



福岡県立美術館

目 次

I. はじめに	1
II. 事業実施要項	2
1. 趣旨	
2. 事業内容	
3. 主催	
4. 実施期間	
5. 対象校	
6. 補助対象経費	
7. 申込み及び実施手続について	
8. 連絡先	
III. アートコース事業実施細目	4
1. アートコース（福岡県立美術館）における鑑賞活動メニュー	
2. 留意事項	
3. 学習プログラム例	
IV. 事業実施内容	6
1. 事前打合せ	
2. 事業実施日に行う鑑賞マナー	
3. 展覧会（実施状況や児童生徒の様子から）	
・「コレクション展Ⅰ 特集：はるかなる風景」	8
・「マリー・アントワネット物語展」	10
・「コレクション展Ⅱ 夏休み特集：没後45年 坂本繁二郎と静物画」	12
・「江上茂雄 風ノ影、絵ノ奥ノ光」	14
・「コレクション展Ⅲ 特集：美を寿（ことほ）ぐ」	16
V. 事業アンケート結果 ～感想、集計及び考察～	18
VI. 成果と課題	26
VII. 事業実施校一覧	27

I. はじめに

本資料は平成25年度「スクール・ミュージアム事業（アートコース）」についての事業記録です。

本年度「スクール・ミュージアム事業」と名称を変更した本事業は、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び一般財団法人福岡県教職員互助会の三者合同で行っており、この中で福岡県立美術館は「アートコース」を実施しています。

本事業は、県内の公立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校に通う児童生徒を対象として、各学校と連携して児童生徒に合わせた鑑賞プログラムを実施し、児童生徒が美術作品に直接触れる機会、学校では体験できない学びの場を提供しています。さらに、作品を鑑賞する機会の充実を図るために、学校から美術館に来館するための交通費や観覧料などの経費を補助しています。

作品の鑑賞において、児童生徒は視覚や聴覚などの様々な感覚や経験などによって、よさや美しさなどを捉えています。さらに、感じたことを自分自身の言葉として表現したり友達と話し合ったりするなどして、その見方や考え方を深めています。出会う対象が魅力的であればあるほど、児童生徒は主体的にそのよさや美しさなどを感じ取り、自分なりの意味や価値を見出すことができます。美術作品に直接触れた児童生徒の目は輝きます。その様な児童生徒の姿を私たちは目の当たりにしてきました。

本年度福岡県立美術館で実施いたしましたアートコースには、28校を実施校として選考・決定し、合計1,863名の児童生徒・引率教員のみなさんに美術館での多様な体験をしていただきました。

現行の学習指導要領では、鑑賞指導の更なる充実が求められており、学校と美術館が連携することや、文化財を活用することが勧められています。美術館を単に施設として利用するだけではなく、学校と美術館が協力して、児童生徒が能動的に鑑賞できるように、両者が考え、学び、連携の可能性を探ることは大変意義深いものです。そこで、福岡県立美術館では各学校の担当者と事前の打合せを綿密に行い、児童生徒の実態や発達段階、学習の目的などに応じた鑑賞学習の実施に努めています。

図画工作科・美術科における鑑賞学習とは、人が生み出す「美術作品」をなかだちとして自分を見つめる学習です。また、自分自身を含め、人が何を感じ、考え、生きているのかについて共感したり体感したりする学習でもあります。様々な価値や思い、あるいは表現などについて、人と人、人との、人と価値をつなぐものであり、児童生徒の成長にとって必要不可欠な学習です。児童生徒が、美術作品と直接出合うことによって、沸き起こってくる感情や思考を大切にした鑑賞活動を行うためにも、特に言語活動を取り入れた小集団活動を多く行うとともに、児童生徒がコミュニケーション力を自然な形で発揮しながら楽しく学習できる鑑賞プログラムの実施に努めて参りました。

事業の開催と本資料の作成にあたり、温かい御協力を賜りましたみなさまに、心より感謝いたします。

平成26年3月
福岡県立美術館

Ⅱ．事業実施要項

平成25年度スクール・ミュージアム事業実施要項

(福岡県立美術館・福岡県青少年科学館・一般財団法人福岡県教職員互助会合同事業)

1. 趣旨

福岡県では、生涯学習社会の実現を目指す社会教育の推進のために社会教育施設の機能充実、利用促進を掲げ、特色ある県民文化の創造のために子どもの文化芸術活動を推進するとともに、科学教育の普及、振興を図っている。

一方、学校教育では美術館・博物館あるいは科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用するよう配慮することが求められている。

こうした現状を踏まえ、福岡県教育委員会が推進する学校支援事業の一環として、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び一般財団法人福岡県教職員互助会の三者で児童生徒の鑑賞活動や科学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的とし、スクール・ミュージアム事業を実施する。

2. 事業内容

児童生徒に、福岡県立美術館又は福岡県青少年科学館での様々な学習プログラムを通して新たな見方や感じ方、考え方を気づかせるとともに、文化施設利用のマナーを自覚させる。

3. 主催

スクール・ミュージアム事業実行委員会

(福岡県立美術館、福岡県青少年科学館、一般財団法人福岡県教職員互助会)

4. 実施期間

平成25年5月から平成25年12月まで

5. 対象校

県内公立の小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校（両政令市立学校を含む。）

6. 補助対象経費

必要経費（実費相当額）を補助対象経費として福岡県教職員互助会で負担する。

※往復の経路に体験活動を行う他の社会教育施設（九州歴史資料館等）に立ち寄ることも可能。

(1) 児童生徒及びその引率教職員の観覧料及び入館料

※サイエンスコースでは、来館の1週間前までに所定の「減額・免除申請書」の提出が必要。

(2) 往復バス借上料（JR、地下鉄、船、車椅子運搬用トラック等交通費を含む。）及び有料道路使用料（実費相当額）

※県立美術館及び青少年科学館以外の施設で発生する費用（入場料、駐車料金等）は補助対象外。

(3) 福岡県青少年科学館での科学工作教室の材料費（1個100円）

7. 申込み及び実施手続について

(1) 申込み

申込書（様式1）にバス借上料等に係る見積書を添付の上、平成25年2月19日（火）（必着）までに福岡県教職員互助会宛てに提出する。

＊申込みは、アートコース又はサイエンスコースのどちらか一方に限る。

ただし、県立美術館又は青少年科学館への往復経路に他方の館があることから両方のプログラムを希望する場合は、アートコースに申し込む。

(2) 選考結果通知

スクール・ミュージアム事業実行委員会は申込書の内容を基に選考し、対象校を予算の範囲内で決定し、3月末までに全ての応募校に実行委員会（福岡県教職員互助会）から選考結果を通知する。

(3) 事前打合せ

参加校の担当者は、実施日の1か月前までに、アートコースは福岡県立美術館に、サイエンスコースは福岡県青少年科学館に来館の上、学習プログラムの打合せや施設見学を行う。

(4) 事業実施

福岡県立美術館又は福岡県青少年科学館に来館して、学習プログラムを行う。

＊サイエンスコースは実施日の1週間前までに青少年科学館への所定の「減額・免除申請書」を提出する。

(5) 実施報告及びバス借上料等の請求

参加校は、実施後1週間以内に、福岡県教職員互助会宛てに所定の請求書を提出する。

＊サイエンスコースの参加校は青少年科学館へ所定の「実施報告書」を提出する。

(6) 補助対象経費の確定・振込み

福岡県教職員互助会より指定の口座（原則校長名義）に補助対象経費を振り込む。

バス借上料等の支払いは学校が行う。

8. 連絡先（参考）

■アートコース

福岡県立美術館

〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1

TEL 092-715-3551 FAX 092-715-3552

■サイエンスコース

福岡県青少年科学館

〒830-0003 久留米市東櫛原町1713

TEL 0942-37-5566 FAX 0942-37-3770

■福岡県教職員互助会

〒810-8583 福岡市中央区天神4-8-10 都久志会館3階

TEL 092-781-2151 FAX 092-781-2348

Ⅲ. アートコース事業実施細目

福岡県立美術館は、福岡県における美術活動の促進と県民の美術に関する知識と教養の向上に寄与する展覧会活動などを長年続けてきました。特に近年、地域社会における美術館の役割が注目され、それに伴い美術館と学校との連携もますます重要になってきています。

アートコースは、福岡県立美術館における鑑賞プログラムによる学習を中心に行う事業です。

1. アートコース（福岡県立美術館）における鑑賞活動メニュー

プログラム名		対象	時間	場所	内 容
鑑賞マナー	必須	全学年	15分程度	視聴覚室など	美術館での鑑賞マナーを聞く。
ギャラリートークA (小人数) 2～10名	選択	全学年	15分程度	展覧会場	作品を前に2名～10名程度でトークを聞きながら鑑賞したり小グループで鑑賞したりする。(各グループに引率者等が入ることが望ましい)
ギャラリートークB (学級単位)30名程度	選択	全学年	15分程度	展覧会場	作品を前に学級単位でトークを聞きながら鑑賞する。
ギャラリートークC (学年単位などの大人数)100名程度	選択	全学年	30分程度	視聴覚室など (その後展覧会場で鑑賞)	鑑賞前に展覧会や作品についての鑑賞のヒントや解説を聞き、展覧会場で自由に鑑賞する。
集団鑑賞 (学級単位)30名程度	選択	全学年	30分程度	展覧会場	展覧会場で列になって入場・鑑賞する。
自由鑑賞 (学級単位)30名程度	選択	全学年	30分程度	展覧会場	展覧会場で一人一人自由に鑑賞する。
館内・館外見学	選択	全学年	15分程度	館内及び館外	美術館の施設見学等 ※展覧会日程によって実施不可
学習のまとめ	必須	全学年	15分程度	展覧会場外	鑑賞後、アンケートに答える。

※実施当日は、最初に「鑑賞マナー」、最後に「学習のまとめ」を必ず行うようにしています。

2. 留意事項

(1) 実施期間

平成25年5月から平成25年12月まで（ただし実施対象展覧会会期中に限る。）

(2) 実施対象展覧会

- ①「コレクション展Ⅰ 特集:はるかなる風景」 <3月9日(土)～6月30日(日)>
- ②「マリー・アントワネット物語展」 <4月27日(土)～6月23日(日)>
- ③「コレクション展Ⅱ 夏休み特集:坂本繁二郎と静物画」 <7月6日(土)～8月30日(金)>
- ④「平成25年度第69回福岡県美術展覧会(県展)」〈公募展〉 <9月3日(火)～9月29日(日)>
- ⑤「江上茂雄 ― 風ノ影、絵ノ奥ノ光」 <10月5日(土)～11月10日(日)>
- ⑥「コレクション展Ⅲ 特集:美を^{こよほ}る」 <11月15日(金)～12月27日(金)>

※展覧会名称は変更する場合があります。

※展覧会内容は別紙「展覧会スケジュール」を参照してください。

※下記の日程は、展示・撤去作業等のため実施できません。

6月24日(月)～7月5日(金)、11月11日(月)～11月14日(木)

(3) その他

展示会場の収容人数に限りがあるため、参加校の規模によっては、同日及び同時間帯に事業を実施できない場合があります。

事業に参加された際、活動の様子を撮影させていただくことがあります。撮影した写真は、事業報告書や広報用資料等に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

不明な点については福岡県立美術館(電話092-715-3551)までお問い合わせ下さい。

3. 学習プログラム例

(1) 小学校(参加児童数40名2クラス)滞在時間90分程度

鑑賞マナー(15分)→展示会ⅠギャラリートークB(10分:作品を見ながら)→展示会Ⅰ集団鑑賞(20分)→展示会ⅡギャラリートークA(小集団活動30分)→学習のまとめ(15分)

(2) 小学校(参加児童数24名1クラス)滞在時間100分程度

鑑賞マナー(15分)→展示会ⅠギャラリートークA(30分:作品を見ながら)
→展示会Ⅱ集団鑑賞(30分)→館内・館外見学(10分)→学習のまとめ(15分)

(3) 中学校(参加生徒数180名6クラス)滞在時間90分程度

1～3組:午前美術館(午後に他の施設)
鑑賞マナー(15分)→展示会ⅠギャラリートークC(視聴覚一斉:20分)→展示会Ⅰ自由鑑賞(40分)→学習のまとめ(15分)

4～6組:午後美術館(午前に他の施設)
鑑賞マナー(15分)→展示会ⅠギャラリートークC(視聴覚一斉:20分)→展示会Ⅰ自由鑑賞(40分)→学習のまとめ(15分)

(4) 中学校や高等学校 部活動(参加生徒数30名)滞在時間90分程度

鑑賞マナー(15分)→展示会ⅠギャラリートークA(30分:作品を見ながら)
→展示会Ⅱ自由鑑賞(30分)→学習のまとめ(15分)

※ 実施当日の学習プログラムは学校と美術館との担当者による打ち合わせを行った上で決定していきます。

※ 学校の規模等によっては、希望した学習プログラムの実施が難しい場合もございますのでご了承下さい。

IV. 事業実施内容

1. 事前打合せ

(1) 打合せ

事業実施日の1ヶ月ほど前を目安に学校担当者に来館していただき、事前打合せを実施している。

打合せ時間は約1時間程度、内容は以下のとおりである。

- ・ 学校長と担当者名の確認
- ・ 児童生徒、引率教員等の人数
- ・ 到着出発時刻及び滞在時間、昼食の有無、バスなどの台数と駐車時間
- ・ 学習のねらい（申込みの理由、活動目的、期待される成果など）
- ・ 事前実施案をもとに鑑賞プログラムの内容と活動時間
- ・ 児童生徒の発達段階や実態（配慮すべきこと）
- ・ 館内の施設確認

■平成25年度スクール・ミュージアム事業(アートコース【美術館】)			
実施案 打合せ職員(学芸課:藤本 晋及課:松藤)			
学校名	〇〇市立〇〇小学校(〇〇市〇〇区〇〇町〇〇番〇〇号)		
学校長名	担当者名		
予定人員	総計〇〇人(内訳) 学年 児童・生徒 〇〇人 引率者 〇〇人 ■バス 1台 大きさ(中型1台) 当日 児童生徒 引率者		
連絡先	TEL	FAX	
未館日	〇〇月〇〇日() 午前10時00分～11時40分 (2時間) ★昼食		
鑑賞する展覧会	4F展示(美を寿ぐ) 3F/1F展示(中央区市民文化祭美術作品展/ウッドペイント教室作品)		
領域	図工・美術・総合的な学習の時間(特別活動)学校行事 その他() いずれかに○を		
実施内容	■事前打ち合わせ 希望日 月 日() 日() □トークA(小集団) □トークB(学級) □作品解説 □体験ワーク □鑑賞ワークシート □館内・館外ツアー ■事後アンケート【必須】		
資料の希望	■美術館案内リーフレット(けんぴ行かん?) (30)部 ■展覧会チラシ ()部 ※後日 □鑑賞ワークシート ()部		
必要欄に	<鑑賞プログラム内容(案)> 事前学習 【学校にて】 鑑賞マナーについて		
10:00～10:20 【20分】	移動・準備 鑑賞マナー・県立美術館紹介・「美を寿ぐ」	対応職員	松藤 藤本
10:20～10:55 【30分】	4F 「美を寿ぐ」展 ①作品紹介の説明 ※職員と先生でロールプレイ ②好きな作品探し ③作品の説明 ※4人グループに分かれて	4F 富永朝堂の作品鑑賞 3F 中央区市民文化祭美術作品等鑑賞 1F ウッドペイント教室作品鑑賞 館内館外見学	松藤 藤本 井本(写真) 新谷
11:00～11:35 【30分】	4F 富永朝堂の作品鑑賞 3F 中央区市民文化祭美術作品等鑑賞 1F ウッドペイント教室作品鑑賞 館内館外見学	4F 「美を寿ぐ」展 ①作品紹介の説明 ※職員と先生でロールプレイ ②好きな作品探し ③作品の説明 ※4人グループに分かれて	松藤 藤本 井本(写真) 新谷
11:40～12:00 【20分】	アンケートの記入	4F 視聴覚室	松藤 藤本
事後学習 【学校にて】			

<鑑賞経路>
(特集 美を寿ぐ展)

(貸館 中央区市民文化祭美術作品展 他)

(貸館 ウッドペイント教室作品展)

鑑賞活動 贈りたい作品探し
小集団活動

対応職員: 松藤 藤本 井本 新谷
 ①作品紹介の説明
 ※ロールプレイ
 ②贈りたい作品探し
 大切な人にプレゼントする作品選び
 ③作品紹介
 ※小集団で活動
 ※4Fでは富永朝堂作品鑑賞も行う。

鑑賞活動 自由鑑賞

対応職員: 松藤 井本 新谷
 ①集団鑑賞
 ・全員である程度かたまって移動しながら見学。
 ※他の来場者の前を横切らない。
 ※静かに歩くように指示する。
 ※記録用撮影時は他の来場者や作品に十分配慮するよう指示する。

鑑賞活動 自由鑑賞

対応職員: 松藤 井本 新谷
 ①集団鑑賞
 ・全員である程度かたまって移動しながら見学。
 ②館外見学へ

<備考欄>
 学習のねらい: 美術作品を直に鑑賞し、鑑賞プログラムの体験を通して、作品のよさや美しさを感じ取らせ、児童のものの見方や考え方を広げる。
 美術館という文化施設の利用を通して、利用マナーを体得させ、社会性の向上を図り、今後の学校生活に生かす。
 他の施設の利用: 学校→県美→マリンワールド→学校
 配慮すべきこと: 特になし。
 話してもらいたいこと: 職員にお任せします。
 児童生徒の実態: とても仲がよく人間関係は良好。美術館に足を運ぶ機会がありません。作品を鑑賞する機会が少ない。
 その他: 作品から何か学んでほしい。

【打合せで使用する事前実施案】

(2) 配布物

打合せ時に対象展覧会のちらしや美術館案内リーフレットを児童生徒数分渡して、学校での事前指導に役立てていただくように依頼している。

(3) 打合せから事業実施日までの流れ

- ① 学校担当者と事前打合せの日程を決める。
- ② 県立美術館にて学校担当者と打合せを行う。
必要に応じて学校担当者と鑑賞プログラムなどの確認を行う。
- ③ 児童生徒、引率教員が来館し、鑑賞プログラムを提供する。

2. 事業実施日に行う鑑賞マナー指導

県立美術館では児童生徒が鑑賞学習に必要なマナーやルールを身につける鑑賞プログラムを展開している。鑑賞マナーは各学校において事前指導を行っていただき、県立美術館で復習しながら指導している。鑑賞マナーと併せて、県立美術館が約50年前に建てられたこと、福岡県には多くの優れた作家が活躍し、その作品を多数収蔵していることなども説明している。



【鑑賞マナーの説明を聞く児童】



【福岡県出身の彫刻家、富永朝堂の説明を聞く生徒】

職員による鑑賞マナーの説明内容は主に次の4点である。

- ① 展覧会場では、他のお客さんの迷惑にならないように静かに活動すること。
- ② 作品にさわらないようにすること。
- ③ 美術館や博物館では鉛筆のみを使用できること。
- ④ 館内では飲食ができないこと。

鑑賞（作品をみるとき）のマナー

1 小さな声で話そう。



他のお客さんの
めいわくに
ならないように
しよう。

見ている人の前を通らない。

鑑賞（作品をみるとき）のマナー

2 作品や人を大切に。



作品をさわったり
人にぶつかったり
しないように、
静かに歩こう

かべやケースによりかからない。

鑑賞（作品をみるとき）のマナー

3 メモはえんぴつで。



美術館や
博物館では、
鉛筆以外は
使えません。

鑑賞（作品をみるとき）のマナー

**4 飲んだり食べたり
できません。**

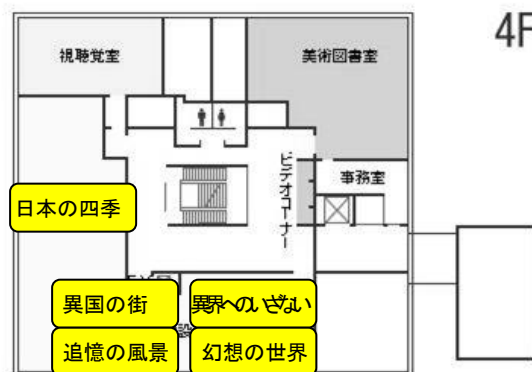


【鑑賞マナー説明のスライド】

3. 展覧会（実施状況や児童生徒の様子から）

コレクション展Ⅰ 特集：はるかなる風景

H25. 3. 9～H25. 6. 30



「はるかなる風景」のテーマのもと、「日本の四季を旅して」「あこがれの異国の街へ」「追憶の風景」「幻想の世界」「異界へのいざない」の5つのコーナーに分け展示。30数名の画家たちのまなざしが見つめ、描き出された「はるかなる風景」70点あまりを堪能する展覧会。

(1) 展覧会の紹介



【展覧会の紹介スライド】

初めに、『『風景』って何でしょう。』という問いかけから出発し、風景画について説明した。そして、展覧会の5つのテーマの中から日本の四季を風景の中に表現した作品（「日本の四季を旅して」）、国外へ出かけることが難しい時代にヨーロッパ留学を果たした画家たちが描いた海外風景の作品（「あこがれの異国の街へ」）を選び、スライドで提示するとともに各作品に込められた思いについても紹介し、展覧会場でのお気に入りの作品を探す活動へと導いた。

(2) 展覧会会場での様子

会場内では次のような活動をととして児童生徒に作品を鑑賞させた。



【小集団活動の説明】

- ① 5つのコーナーの説明及び小集団活動の説明＜学級集団＞
- ② お気に入りの作品探し＜各自＞
- ③ お気に入り作品の紹介と交流＜4～8人程度の小集団＞

③では小集団の司会を児童生徒に担当してもらおう。職員や引率教員は各集団にファシリテーターとして1人ずつ入り、作品の質問や感想を出し合うようにして、充実した集団活動ができるようにした。 ※ファシリテーター・・・調整役のこと。グループ活動が円滑に行われるように、中立的な立場から支援する役割を担う。



この道はどこまで
続いているのかな。

【お気に入りの作品探し】

小集団活動の説明の後、児童生徒はお気に入り作品探しを行った。5つのコーナーのどこからでも見たいところから自由に作品を鑑賞してもらった。

この展覧会では、小中学生向けの作品クイズが各コーナーに1つずつ作成されているので、クイズを解きながら作品探しをしてよいことを伝えた。児童生徒は、クイズをとおして、作品を細部までしっかり鑑賞し、お気に入りの作品探しにつなげていった。

お気に入り作品探しの後、児童生徒はお気に入り作品の紹介と交流を行った。お気に入り作品の前にみんなを案内して、作品や選んだ理由について話した。

「これは太陽なのかな。」「なんだか丸いものに吸い込まれそう。」など作品を見て感じたことをありのままに表現し、各自作品と向き合っていた。



ここに作者の隠しサインがあるよ！

【クイズを解きながらの作品探し】

【クイズ】本作品のどこかに作者・山本知克の書き入れた隠しサインがあります。それは次のどれでしょう。

- A 漢字で「知克」
- B ひらがなで「やまもと」
- C ローマ字で「T. Yamamoto」

緑の丸いものは太陽、黒い部分は木を表していると思いました。



緑の太陽？これは太陽なのかな。

【選んだ作品について交流する児童】

(3) 活動の振り返り

好きな絵を選んで班のメンバーと話し合うという時に友達が気になった絵を班の人や先生と一緒に見て、馬が見えるという話になってみんなで見ていました。そんな会話をしている時に、絵は色々な物を想像したりする事が出来るからすごいなと思いました。絵は色々な魅力があつていいなとも思いました。(抜粋)

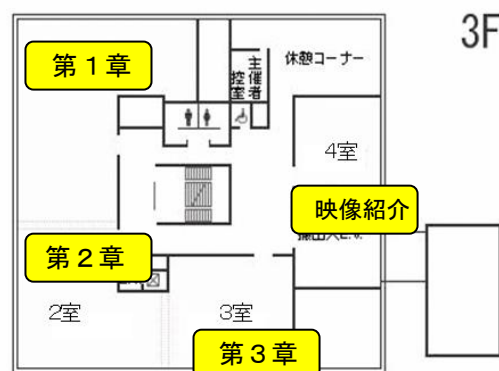
絵を鑑賞してみんなと「これはいい」と思った絵を一人ずつ発表し、その絵について深く考えて想像を広げることを初めてやってみて、「人によって見方、考え方が違っておもしろいな」と思いました。美術館の印象がすごく変わる一日でした。(抜粋)

【活動後の感想】

活動終了後の振り返りに書いてもらった感想では、「馬が見えるという話になり」から、作品について交流をとおして班で新たな気づきを共有し、絵は色々な物を想像できる魅力があることを実感している。また、人によって見方、考え方の違いのおもしろさを感じ取り、美術館の印象を大きく変えることができたようである。

マリー・アントワネット物語展

H25. 4. 27～H25. 6. 23



フランス革命のさなか断頭台の露と消えた悲劇の王妃、マリー・アントワネットの一生を作品でたどるとともに、洗練されたライフスタイルやファッションに代表される彼女が愛した“美”に焦点をあてた展覧会。フランスの名門貴族が代々受け継いできた家宝を含む約120件の貴重な資料を展示。

(1) 展覧会の紹介



【展覧会の紹介スライド】

初めに、マリー・アントワネットが18世紀のフランス王妃として歴史に名を残していることをヨーロッパの地理や18世紀という時代について確認しながら話した。そして、彼女の人生とそのエピソードを紹介するとともに、各エピソードに関連する作品を展示していることを作品のスライドを見せながら話し、児童生徒が歴史の視点からも興味をもって作品を鑑賞できるようにした。

(2) 展覧会会場での様子

会場内では次のような活動をととして児童生徒に作品を鑑賞させた。



【鑑賞マナーを再確認する様子】

- ①職員による展覧会鑑賞マナーの再確認＜学級集団＞
- ②作品鑑賞＜各自＞
- ③「第2章」のドレスの復元を展示しているコーナーの紹介＜学級集団＞
 - ①は一般客数を確認の上、マナーの再確認を行う。
 - ③では復元されたドレスなど作品について、学級で集合し、トークを行った。



これは結婚式を描いた版画です。
14歳のときです。



ダイヤはばらばらにして売られました。

【職員が案内しながらの作品鑑賞】

展覧会マナーを再確認した後、職員が児童生徒を案内しながら作品鑑賞してもらった。案内しながら一般客が少ない場所では作品を簡単に説明した。児童生徒は「扇子は細かいところまで絵が描かれていてとてもきれい。」「毎日裕福な生活をしている。」など、感動したり驚いたりする姿が見られた。



肖像画や衣装日誌などをもとに
再現されたドレスです。



ドレスはきれいだけど、腰のこ
ろはとても細いな。

【ドレスコーナーの説明を聞く児童】

【ドレスを熱心に鑑賞する児童】

「第2章」のドレスの復元を紹介しているコーナーでは、肖像画や衣装日誌などの資料をもとに再現されたドレスであることや衣装日誌も展示されていることを伝えた。このコーナーは写真撮影可能であり一般客も多かったが、児童生徒はマナーをしっかりと守り鑑賞することができた。

(3) 活動の振り返り

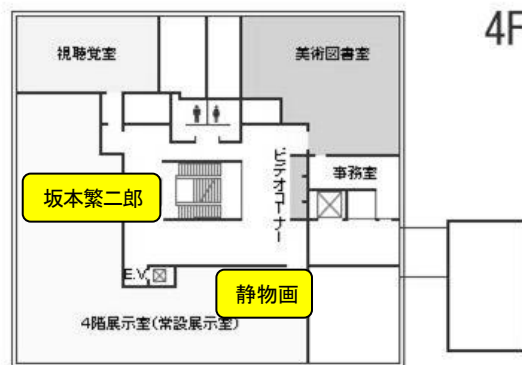
マリー・アントワネットの人生についての絵では、貴族みたいな生活だったし、人の表情や風景が細かくきれいに描かれていて心に残りました。あと、ドレスやかつらからも動きにくいものからだんだんと変わっていったことが分かりました。(抜粋、一部修正)

アントワネットが本当に使っていたおおぎや時計などたくさん心にのこった。美じゅつ館はとてもやすらぎとところだなと思いました。わけはしずかだし、いろんなさくひんもあってとてもおもしろかったです。こんど来るときは、家ぞくと一しょに来たいです。(抜粋)

【活動後の感想】

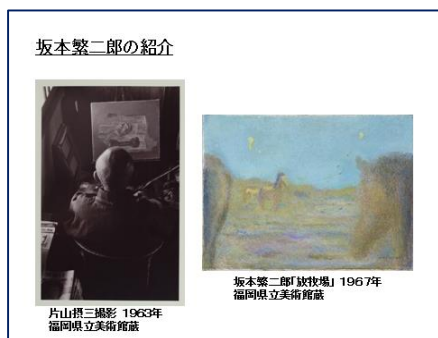
活動終了後の振り返りに書いてもらった感想をみると、18世紀のフランス文化を体感し、現在の文化へ変化したことを理解していることが分かる。また、作品との出会いから家族と一緒に美術館に来たいという感想もあり、作品を鑑賞する楽しさを味わうことができたと考える。

コレクション展Ⅱ 夏休み特集：没後 45 年 坂本繁二郎と静物画 H25. 7. 6～H25. 8. 30



久留米出身の洋画家坂本繁二郎は能面や果物、茶碗、書物など、日常身边にある道具や題材を取り上げて、静謐で精神性の高い静物画を制作した。この展覧会では、独自の幻想的な画風を展開した坂本繁二郎の作品約40点に加え、高島野十郎、児島善三郎ら様々な作家の静物画も併せて紹介した。

(1) 展覧会の紹介



【展覧会の紹介スライド】

初めに、坂本繁二郎の生涯と久留米・八女との深い関わりを紹介した。そして、「馬の画家」とも呼ばれた繁二郎の馬の作品をスライドで見せて、繁二郎の馬へのまなざしについて話した。その後、いろいろな題材の静物画を紹介し、児童生徒が題材と描き方に注目して鑑賞できるようにした。

また、会場内に展示している高島野十郎と児島善三郎の静物画のスライドを見せ比較させることで、同じ題材でも作者によって表現が違うことに気づかせ、児童生徒の鑑賞意欲が高まるようにした。

(2) 展覧会会場での様子

会場内では次のような活動をとって児童生徒に作品を鑑賞させた。



【職員による坂本作品のギャラリートーク】

- ①坂本繁二郎作品についてのギャラリートーク＜15人程度＞
- ②静物画作品についてのギャラリートーク＜15人程度＞
- ③自由鑑賞＜各自＞

①②では職員（学芸員）がトークを担当した。15人程度の集団を基本とし、児童生徒が多い場合は、集団を2つに分け鑑賞しやすくした。

「石」です。さわるとやわらかい
ような不思議な感じがしますね。



【職員による坂本作品のギャラリートーク】

静物画のギャラリートークは高島野十郎と児島善三郎の作品を使って行った。職員（学芸員）がどちらの作品が好きか児童生徒に質問してグループを分け、理由を尋ねた。

「高島さんの作品は本物とそっくりで好きです。」

「児島さんの作品は色が鮮やかで元気をもらいます。」

児童生徒の感じ方の気づきを認めつつ描かれた皿やポットなどから作品を描いた作者の視点の違いについて話した。

坂本繁二郎の作品についてのギャラリートークでは児童生徒に「能面」「石」や馬のシリーズの作品などを中心に職員（学芸員）が作品を解説した。

左に「柿」右に「石」の前でのギャラリートークでは、『普通はさわると柿より石が硬いのだが、坂本作品の「石」は「柿」よりもさわると柔らかいような不思議な感じがする。』というように、2つの作品を比較しながら坂本繁二郎の独自の画風について話した。

なお、学級集団を2つに分け、静物画についてのギャラリートークと並行して行った。

児島の作品は複数の視点で描かれていることが分かりますね。



【職員による静物画のギャラリートーク】



【自由に作品を鑑賞する生徒】

2つのギャラリートークがそれぞれ終わったところで、各自で自由に作品を鑑賞した。「坂本さんの作品がだんだん空や草や馬の区別がはっきりしなくなっている。」「高島さんの静物画はりんごやさくらんぼの置き方に決まりがあるように思う。」など、友達と話しながら鑑賞する姿も見られた。

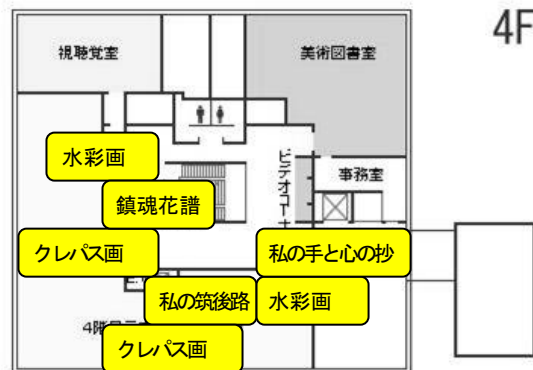
鑑賞時間に余裕がある場合は、好きな作品探しをした後、その好きな作品について小集団で交流した。

(3) 活動の振り返り

坂本さんの石のように、私もよくあのように描きます。きつい、さみしい、楽しい、ほわっとしているような、言葉にならないような気持ちをもたせてもらいました。八十代になって、(坂本繁二郎が) 月を描いたのが私は神へのプレゼントに見えました。(抜粋)

【活動後の感想】

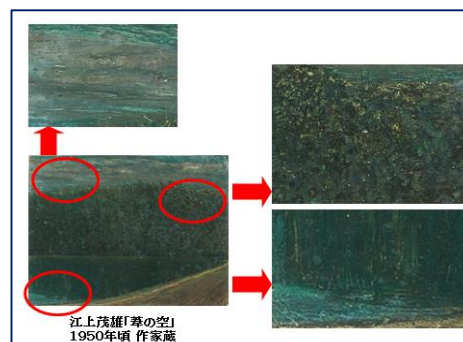
活動終了後の振り返りの感想で「坂本さんの石のように、私もよくあのように描き」とあり、坂本繁二郎と同じ題材を選び、その描き方の共通する部分に注目していることが分かる。そして、繁二郎の作品からさまざまな感情があふれ、作品を自己の中で価値付けしながら鑑賞できていると考える。



4F

瀬高町（現みやま市）に生まれた101歳の江上茂雄は会社勤めをしながら日曜日毎にクレヨンやクレパスで絵を描き、定年退職してからは水彩画を1日1枚完成させる毎日を過ごしてきた。約2万枚に及ぶ膨大な作品から約200点を厳選し、その道行を辿る展覧会。

(1) 展覧会の紹介



【展覧会の紹介スライド】

まず、江上茂雄が日曜日毎にクレヨンやクレパスで絵を描き、定年退職後は毎日水彩画を描いたこと、全作品約2万枚のうちの約200点を展示していることを伝えた。そして、児童生徒が描いた経験があるクレパス画に注目し、クレパス画の作品をスライドで見せ、児童生徒に使っている色や描き方について話すことで、児童生徒が色使いや描き方に注目して作品を鑑賞できるように話した。

(2) 展覧会会場での様子

会場内では次のような活動をととして児童生徒に作品を鑑賞させた。



【クレパスで描く技法の説明を聞く児童】

- ①江上茂雄の紹介とクレパス画作品の解説＜学級集団＞
- ②お気に入りの作品探し＜各自＞
- ③職員、引率教員による作品紹介のロールプレイ＜学級集団＞
- ④お気に入り作品の紹介と交流＜4人程度の小集団＞

①のクレパス画の解説では、職員（学芸員）が児童生徒の実態に合わせて実際に児童にクレパスで描かせるなどして説明した。説明後に、お気に入りの作品について探し、交流することを話した。



【職員の話聞きながらの作品探し】



【引率教員と作品のよさ見つけ】

お気に入りの作品探しは、自分のペースで行った。作品が約200点あることから、小学校低学年にはクレヨン・クレパス画の中から探すように指示した。ここでは、一人一人が自分のペースで作品探しを行った。友達や職員、引率教員と一緒に鑑賞しながら作品を探す姿が多く見られた。



【引率教員によるロールプレイ】

お気に入りの作品を選んだ後、作品紹介のロールプレイを行った。ここでは、選んだ作品とその理由を児童生徒の実態に合わせて話すとともに、ロールプレイをとおしてお

互いに作品を見て感じたことや思ったことを話すことで、交流を深めることができることを伝えた。

お気に入りの作品の紹介と交流は、自分の選んだ作品の前にみんなを案内し行った。「うん、ぼくもこの絵好き。青色と黄色が交じり合っているところがすごい。」「私はいろんな色の雲がうずまきみたいに動いていて、夕方の景色に見えます。」など、お互いに感じたことを出し合った。



【お気に入りの作品の紹介】

(3) 活動の振り返り

特に心に残った作品は「雪降る」です。雪でもふつうの雪とはちがって、細かい雪で、涼しい感じがした。同じ作者でも、同じテーマでも、表現方法や色使いなどの技が特徴的だった。美術館＝静かで難しいイメージだったけど、作品を見たり、作品の説明をきいたりしているうちに、静かだったけど、それぞれの作品の個性が出るととても明るい所だと思った。(抜粋、一部加筆)

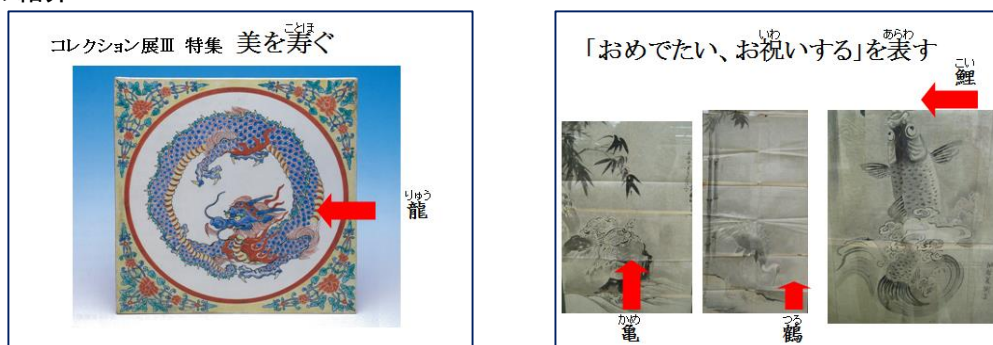
【活動後の感想】

感想の「ふつうの雪とちがって細かい雪で、涼しい感じ」からはその描き方に着目し、自分なりのイメージをもちながら鑑賞していることが分かる。「美術館は作品の個性が出るととても明るい所」は単に作品の色使いによる視覚的な明るさを指しているのではなく、作品の個性から生じる心に響くものなどを指していると思われる。一つ一つの作品を共感的に受け止めたすばらしい鑑賞ができていた。



鶴亀や松竹梅などの縁起のよい動植物、また栄光や立身出世の象徴となる龍や鯉、桜や菊、牡丹といった花々を吉祥の文様として用いられた工芸品や描かれた絵画と九州古陶磁や尾形家絵画資料を合わせて約70点展示。併せて生誕100年記念である大内田茂士のコレクションを紹介。

(1) 展覧会の紹介



【展覧会の紹介スライド】

まず、「寿ぐ」という言葉について説明し、そこから本展覧会で展示している作品には、おめでたいことを喜んだりお祝いしたりする吉祥のモチーフがあることを話した。そして、展示作品をスライドで見せて「作品のどこにお祝いの気持ちが込められているか。」尋ねることで、吉祥のモチーフや文様を見つけたり、作品に込められた意味を発見したりして、児童生徒が吉祥の文様は日常生活の中で使われ、人々に愛されてきたことを理解しながら鑑賞ができるようにした。

(2) 展覧会会場での様子

会場内では次のような活動をととして児童生徒に作品を鑑賞させた。



【職員による作品の紹介】

- ①吉祥のモチーフや文様が入り入れられた作品紹介＜学級集団＞
- ②職員、引率教員による作品紹介のロールプレイ＜学級集団＞
- ③大切な人に贈りたい作品探し＜各自＞
- ④贈りたい作品の紹介と交流＜4～6人程度の小集団＞

①では事前に紹介した鶴亀や松竹梅などの作品を紹介し、吉祥のモチーフや文様にも注目して鑑賞できるようにした。



【引率教員による作品紹介のロールプレイ】

ロールプレイの後、児童生徒は展覧会場を自由に鑑賞して、大切な人に贈りたい作品探しを行った。

「龍の船に鶴や亀が乗っているよ。」

「それだけでなく、ここには打出の小槌があるよ。」

「おめでたいことがいっぱいありそう。」

など、児童生徒は一人一人のペースで友達や当館の職員、引率教員と気づいたことや感じたことを話したり質問したりしながら作品を1点選んでいった。

この鶴の掛け軸をおばあちゃんに贈りたいです。鶴は長生きを表すからです。



【選んだ作品を紹介する児童】

作品紹介の後、児童生徒に贈りたい作品の紹介と交流に対する見通しを持たせるために、美術館職員と引率教員の数名で、ロールプレイを行った。

ここでは、職員と引率教員が選んだ作品とその理由を児童生徒の実態に合わせて話した。



【吉祥の文様を探す児童】

贈りたい作品1点を選んだところで、小集団になり、自分の選んだ作品の前にみんなを案内し交流活動を行った。交流活動では、作品の紹介や選んだ理由だけでなく、その内容から質問をしたり作品を見て感じたことを話したりした。職員や引率教員が各集団にファシリテーターとして1人ずつ入り、交流が充実できるように配慮した。

(3) 活動の振り返り

やさしく、ふんわりな感じの白い花の絵が特に心に残りました。「今さいたよ」みたいに少し見えました。お母さんに似合いそうな絵でした。一人一人の作品の感じ方はちがうということをこの美術館に来て、あらためて思いました。(抜粋、一部修正)

【活動後の感想】

振り返りの感想には、贈りたい作品が「お母さんのイメージに合うやさしく、ふんわりとした白い花」を選んでいて、作品と深くかかわることができたようだ。また、「鶴の掛け軸をおばあちゃんに贈りたい。鶴は長生きを表すからです。」という児童の発言や、「人に贈り物をするという視点で見ると楽しかった。松竹梅の文様の器にどんな料理を入れるかまで考えていた。」という引率教員の感想もあり、児童生徒は吉祥の文様にも注目し生活で使うことを想像しながら鑑賞できたと考える。

V. 事業アンケート結果 ～感想、集計及び考察～

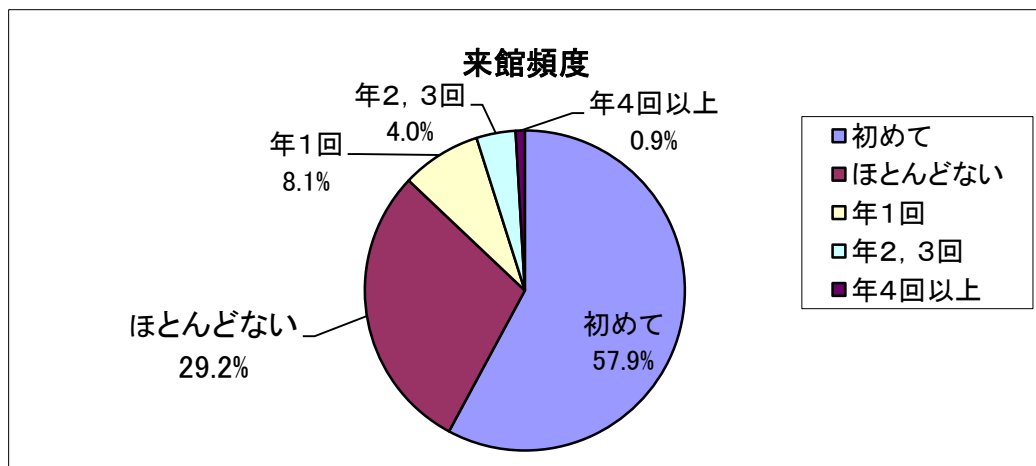
1. 児童・生徒の感想（抜粋、一部修正）

1. 野十郎のろうそくをまた見れたことがなんたる感激と思いました。
2. 静かに作品を見て、いやされるというのがこの美術館のよいところであり、落ち着ける場所でした。カッコイイ作品やおもしろい作品、ふしぎな作品など、いろいろな作品があって、楽しかったです。機会があればまた来てみたいです。
3. （庫田發作の）「梅園」がすごく心に残りました。それは、祖母が幼い頃に連れてってくれたのを思い出したから。絵を見せてやればいいかなと思ったからでした。
4. （高島野十郎作の）さくらの花にいろいろな色を使っているの、心が温まるような感じになりました。美術館に初めて来たけど、とても感情がもてる場所だなと思いました。
5. 近くで見たらくちやとしていたけど色があざやかで遠くから見ると、絵にまとまりがあつてすごく心に残りました。今回の見学で美術館に興味をわいてきて、楽しかったです。
6. （坂本繁二郎作の）真ん中のお面がおぼけみtainな形でおもしろかったです。高島野十郎さんが描いたろうそくの形ときれいな色でおもしろかったです。
7. （坂本繁二郎作の）「能面」は見いってしまうような迫力やふしぎだなと思えたところもあった。同じ静物画で1点の方向の視点から見る描き方といろいろな視点から見る描き方があって、おもしろいなと思った。あと、絵でしか表せない表現の絵などもあって、また来たいと思いました。
8. （高島野十郎作の）さくらんぼの絵が一番心に残った。腐ったさくらんぼを一番手前に描いているのが気になったから。絵には、いろいろな気持ちなどが描かれていることがよく分かりました。あと、絵の説明を聞いて、「なるほど!」と思ったり、新しい意見など分かったのがよかったです。
9. 江上茂雄さんの作品で、静かな町にとっても明るい月が出てきて心が温かくなったし、いい気持ちになった。この美術館に来て、いろんな作品も見れてうれしかった。いろんな世界を想像できた所がよかった。
10. 自分の好きな絵を学芸員の人から説明してもらい、学芸員の仕事に興味をもった。自分の好きな作品を家に帰って、パソコンで調べて、もっと絵と交流していこうと思った。
11. 絵は描くだけでなく、描いた上からけずったり、ぬり重ねたりして、自分のイメージしていた絵を描くとは違った描き方もあるんだなあとと思いました。最初美術館は近い存在じゃない気がしていたけど、今回来てみて一つ一つの作品が全く違って、ただ絵を見るおもしろさだけでなく、描いた人の思いを考えてみるのも違ったおもしろさを発見できると思いました。
12. 江上茂雄さんの「石の朝」はとても神秘的で遠くから見ても近くから見てもきれいでした。僕は蛍の光で石が輝いていると思ったけれど、題名を聞き、そういう見方もあるなという発見ができました。
13. 江上さんが絵をいっぱい描いているのがびっくりしました。江上さんが描いた絵と写真を撮りました。江上さんの作品がよかったです。
14. 江上さんの作品では、特に緑色をたくさん使い自然を表現していていいと思いました。川のところは青をあまり使わずに他の色で水を表していたのすごいいいと思った。
15. （貸館の「染と織展」を見て）タペストリーを作業でしていたから、見れてよかったです。こうもりの絵がかわいかったです。言い伝えの話が聞けてよかったです。
16. （高島野十郎作の）りんごが転がっている絵がすてきだなと思いました。全てにピントがあっていると教えてもらって「確かにそうだな」と感じました。特にりんごが動き出しそうなくらいリアルに描かれていました。最初は美術館に行く聞いて「楽しくなさそうだな」と思いましたが、友達と作品について感想を出し合っているうちに、作品を鑑賞することが楽しくなりました。

17. (高島野十郎作の)「秋陽」があたたかい感じがした。
18. マリー・アントワネットの絵の中で最後に処刑される前の絵が心に残りました、抵抗せずに、堂々とした姿がかっこよかった。風景画は作者一人ひとりの個性が出ていて綺麗でした。また、自分のお気に入りの絵も探せて良かったです。マリー・アントワネット展では、小物や忠実に再現されたドレスなど、今と変わらない技術が使われていて、感動しました。機会があったら、また来たいです。
19. 「玄界灘」や「最端」がきれいだった。二つの作品でも色々な想像の仕方があるんだなと思った。美術館は静かでふんいきが良く、きれいでした。また、想像力をはたらかせ、その人の気持ちや物の使われ方を見るのも楽しかったです。作者の気持ちを考えるのも楽しかったです。
20. 美術館に来て心がすがすがしい気持ちになって、今度心がすがすがしい気持ちになりたいときに来場したいと思いました。
21. マリー・アントワネットの船の髪型から、当時のおしゃれに対する大胆さを感じた。展示物を見る前はどうやって時間をつぶすか考えていたが、マリー・アントワネットのアクセサリや小物、肖像画から時間を忘れて美術作品に没頭する楽しさを感じた。
22. (山本知克作の) 古家のある辻で、自然がほとんど無く、人の建造物が無限に続くような感じが、人間が今の世界にたくさんいる現実を表している感じがよかった。
23. 美術館は静かできれいなすばらしい good な絵がたくさんあって、美術館が大好きになったから、またお父さんとママと妹4人で来たい。
24. 「赤い家」という作品で、赤い家とはしごしか描かれていない殺風景な見た目だったけど、ずっと見ているうちに、「この家はなぜ赤なんだろう」「家の中にはどんなものがあって、どんな人が住んでいるのだろう」と興味がわく作品だった。
25. 美術館は心と体で感じるものだと思います。
26. 今日美術館に来てみて色々な作品を見て、友達とは違う意見がいっぱい出てきて、「ああ、こんなふうにも見える」と新しい発見もある楽しい場所だと思います。
27. 今回が美術館に初めてだったけれど、親しみをもてました。坂本さんの石のように、私もよくあのよう描きます。きつい、さみしい、楽しい、ほわっとしているような、言葉にならないような気持ちをもたせてもらいました。八十代になって、(坂本さんが) 月を描いたのが私は紙へのプレゼントに見えました。人は死が近づくと、天国に上りたいと思い、「どうぞよろしくお願いします」と言っているように思えました。
28. (坂本繁二郎作の) 能面の真ん中のお面にかかっている水色が涙みたいで本当の人間みたいだった。
29. 落ち着くし静かになるしいい場所だなんて思いました。
30. ギャラリートークをして、自分がいいと思う絵と友達がいいと思う絵を話し合っ、見事に友達の意見と真逆だったので、友達の意見を聞いて「こんなところもあるんだな」と感心しました。一つの絵でもいろんな見方があるんだなと思った。
31. 馬の親子が描かれているシンプルな馬の絵が特に心に残った。今からどう生きていくのか、どんな危険なことが起きても進んでいこうというような親子愛が感じられるのが好きだった。
32. 軍艦島をテーマにした、水色と緑色を混ぜ合わせて作られていた作品がありました。その作品は水の中にあるような感じだったけど、なにか心にきました。
33. 「“美術館”って私たちのような高校生が来るような場所じゃない」って思ってた。でも、実はそうじゃなくて。やっぱり落ち着きのある場所。心が落ち着きのない時、ぜひ来たい。

2. アンケートの集計結果（児童生徒）と考察

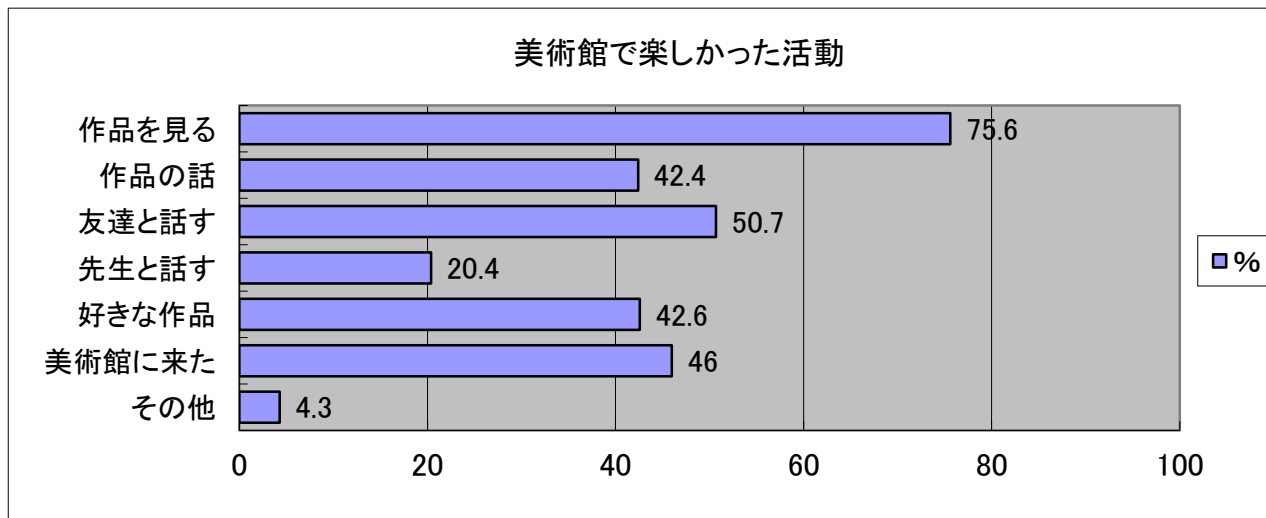
(1) 美術館への来館頻度について



【資料1 美術館への来館頻度】（無回答有）

資料1のアンケートから美術館に初めて来館した児童生徒は約58%、ほとんど美術館に来館したことがない児童生徒が約29%であり、約87%の児童生徒が日常生活において美術館に来館した経験が無いことが分かった。スクール・ミュージアム事業（アートコース）は、児童生徒にとって美術館との初めての出会いであり、美術館に来館する貴重な機会となっている。本事業において、美術作品を鑑賞したり美術館で活動したりする体験をとおして、美術館が児童生徒にとって身近な存在となるとともに、これからの美術教育や美術館にとって大きな意義があると考えられる。

(2) 美術館で楽しかった活動

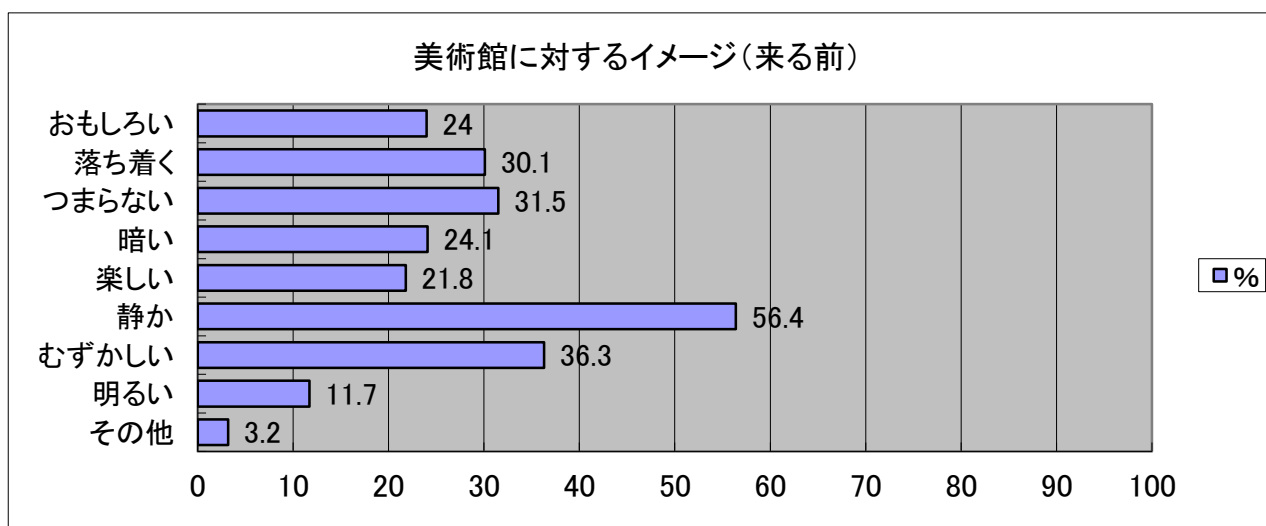


【資料2 美術館で楽しかった活動】（無回答有）

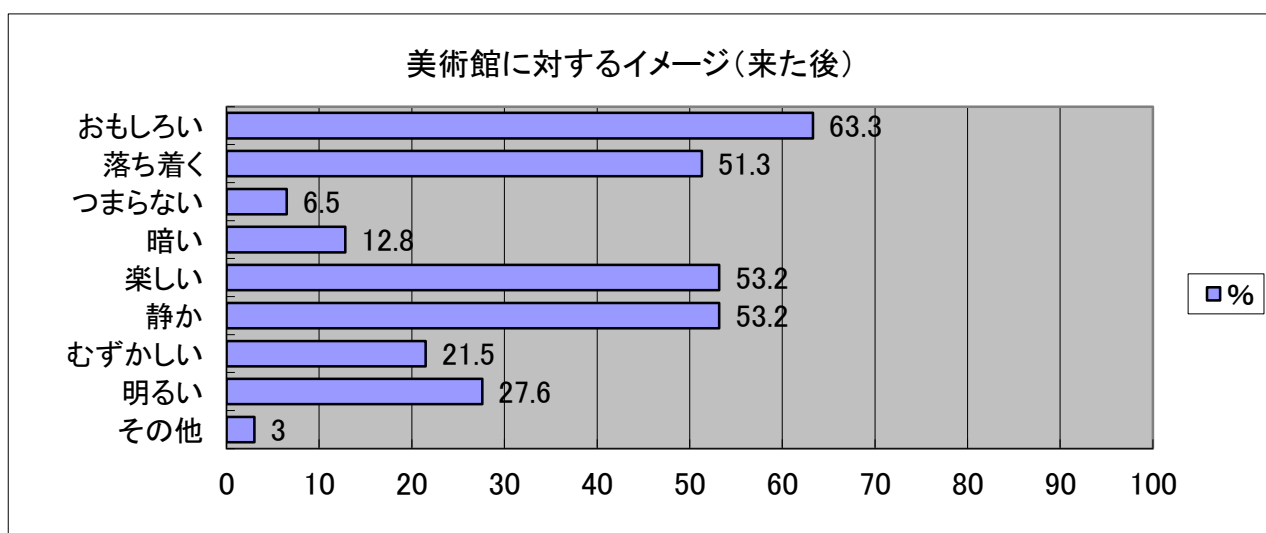
資料2から分かるように「作品を見る」が75.6%「美術館に来た」が46.0%と高い数値を示している。このことから児童生徒にとって、実物の美術作品を鑑賞することが大きな喜びや美術館で心に残る体験となっていると考える。

また、「作品の話を聞く」42.4%、「友達と話す」50.7%「先生と話す」20.4%と昨年よりもそれぞれ、7.8ポイント、7.5ポイント、5.4ポイントと高い数値となっている。これは、作品について友達や先生に話す小集団活動を多く採り入れたからと考える。なお、昨年は楽しかった活動を1人平均約2.5項目選択していたが、今年は1人平均約2.8項目選択しており、美術作品をとおして、感じたことや考えたことを交流したことが、児童生徒の鑑賞の楽しさにつながったと考える。

(3) 美術館に対するイメージの変容について



【資料3 美術館に対するイメージ(来る前)】(複数回答可、無回答有)



【資料4 美術館に対するイメージ(来た後)】(複数回答可、無回答有)

昨年同様、本年度も「美術館に来る前と来た後でどのようにイメージが変化したか」についてアンケートを実施した。資料3と資料4から概ねイメージがよくなっていて、活動の取組に成果があったと考える。特に「おもしろい」が24.0%から63.3%へ「楽しい」が21.8%から53.2%となり、美術館がおもしろく楽しい場所である印象へと大きく変容している。

また、「むずかしい」は21.5%で、昨年度よりも10.8ポイント高い数値となっていた。特に「むずかしい」と答えたのは中学生、高校生であった。これは、美術作品と真剣に向き合い、より深くかかわろうとした結果ではないかと考える。

一方、美術館に対するイメージ(来る前)の「つまらない」「暗い」は昨年と比較し、各2.7ポイント、6.2ポイントも増えていた。これは、来館経験の不足や学校におけるマナーの事前指導が十分に行き届いていないことが考えられる。

今後引率する先生との意思の疎通に努め、学校での事前指導を充実してもらうとともに、各学校のねらいを明確にして各学校が掲げる目標に迫る鑑賞プログラムを実施していきたいと考える。

3. 引率教員の感想（抜粋、一部修正）

1. たくさんの作品に触れることができたこと。また、絵が難しい生徒にとっては、写真などは分かりやすかったのではないかと思います。
2. 前から見たり後ろに下がってみたり、好きや苦手など自分の感じたままに見てよいという話を聞き、ほっとした気持ちで鑑賞できました。
3. 予想以上に子どもたちが興味をもっている様子が意外でした。やはり、本物に触れることの力はすごいと改めて思いました。時間をもっとゆっくりとってじっくり見られたらいいなと思いました。
4. 多様な作品があり、初めのオリエンテーションで作品紹介をしてくださったことで、絵の見方が深まったようです。
5. 地元の画家の方の作品ということもあり子ども達も興味を持ち鑑賞することができた。
6. 生徒にわかりやすく説明して頂き意見も引き出して下さり、これまでの美術館見学とは、一味も二味もちがってとてもよかったです。子どもたちの財産になりました。
7. 図工や美術等の教科指導で、絵をかくときの構図、奥ゆきの表し方、鑑賞のポイント等に生かせそうです。
8. （2013 福岡県シニア美術展を見て）素直に「すごい！」「きれい！」「どうやって描いているの？」という生徒の声がありました。
9. クレパスやクレヨン画の前で、学芸員の方の描き方の説明を受けて、実際にクレヨンを使って、紙に描かせて、また、説明されたので、子どもたちも理解することができてとてもよかった。
10. めでたいものを探すだけでなく「贈り物をする」という観点をもつことで、作品の見方が広がると思った。
11. （貸館の）「染と織展」では、作品に手を触れることができ、身近に芸術を感じることもできた。
12. 美術館などに行く機会の少ない子どもたちがこういう体験ができてよかったです。（静かに見るのがむずかしい子も何人かいるので）
13. マナーを実体験したり直に作品を目にできるこの体験は大変貴重だと思う。
14. 自分が選んだ作品について理由等を伝えたり質問したりすることは大切だと感じた。
15. 生徒の実態に合わせたゆっくりでわかりやすい言葉でのご説明をいただき大変ありがたく思います。
16. 生徒が気になった絵にもていねいに対応してもらえたので、とてもよかった。
17. 班活動がよかった。グループでの話合いのやり方が生徒に分かりやすく説明していただけたと思います。
18. 今後、社会科でフランス革命を勉強するときに、アントワネット展で見たことや作品のことを導入の部分に入れて、この時代の背景を分かりやすく説明できると思いました。
19. 今年で2回目ですが、普段あまり文化に触れられない八女にとってとてもいい事業です。来年度もぜひ応募したいです。
20. 美術の奥深さ、すばらしさを感じさせることができました。
21. 個性あるものばかりで普段はあまり美術作品にふれることができないので、新鮮だった。班別行動もおもしろかった。
22. 受け入れありがとうございます。定時制の生徒にとって貴重な体験になると思います。
23. 様々な異質の作品に触れ、様々な感覚を味わうことができた。

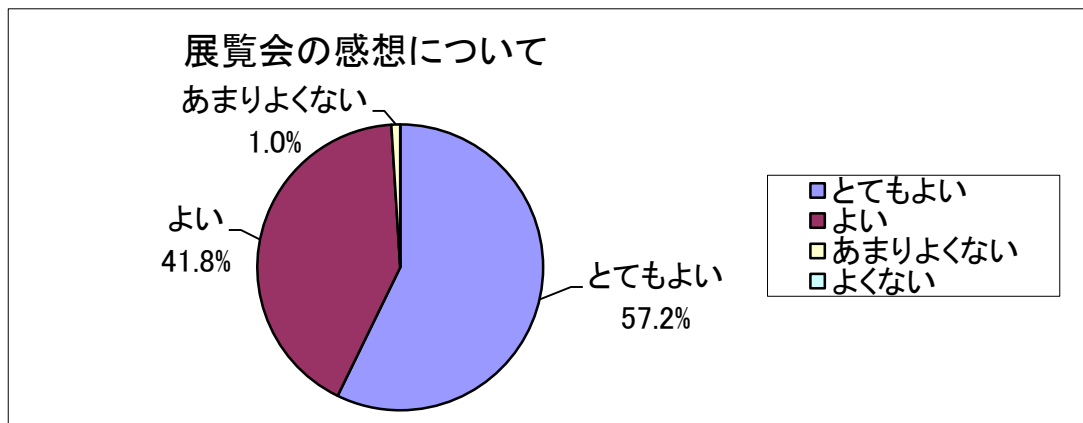
24. 非常に丁寧に対応していただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。(言葉づかい、心づかいなど言うことなしです)
25. 様々な絵がたくさんあって、子どもたちとのトークがとても楽しかった。子どもたちも思っていることを素直に話してくれて、大人では想像もしないことを言っていたのが新鮮だった。
26. 図工の指導で鑑賞の視点や社会のマナーなど(これからの生活で大切なこと)に生かせそうです。
27. 子どもの言葉を上手に拾い上げられ、丁寧に説明されている所は私も参考になりました。
28. 図工の指導で子どもたち同士の鑑賞の仕方や評価に生かせそうです。
29. 美術館職員の方々に絵の見方を説明してもらい、とても分かりやすかった。絵を一人ずつ選び、その絵についての感想を話し合う班活動も初めての体験でよかった。
30. 一人ひとりの思いを他者に伝え、意見交流の時間をとることで、感じ方の違いを知るきっかけになってとてもよかった。
31. 子どもたちが本物の絵画に出合い、自分が感じたことを自由に話す姿にきてよかったと強く思いました。
32. (マリー・アントワネット展を) 子ども達が大変興味をもって見ており、「わぁー」「すごい」「本物! ?」「きれい」と感嘆の声があがっていて良かったです。
33. 好きな絵を選び、交流するという活動がおもしろかったです。発表する子だけでなくそれを見る周りの子も「ここに〇〇がある」「冬やない?」「ここがすごいよね」とよく感想を言っていました。
34. (毎日女流書展を見て) 高校生の作品も見学でき、生徒の刺激になったと思う。
35. 解説によって、色合い、構図などの独自性が分かった。
36. 特別支援学校の生徒にとって一生美術館に来ることがない生徒が大勢いる。ありがたいことです。
37. ギャラリートークを生徒と一緒にすることができ、おもしろかったです。1つの絵から物語が広がっていきました。
38. 子ども達同士のコミュニケーションも深まりつつ絵画の楽しみ方を知ることができたと思います。
39. ただ見るだけでなく小グループで意見交流することで見方・考え方が広がりとても良かったです。

意見や要望等

1. 生徒の障害の実態が様々なので、グループに分けて鑑賞できて良かったです。ただ、プログラム(AグループとBグループに差異がある)に適したグループ分けにしていなかったので修正が必要だと思いました。
2. 鑑賞前にもっと注意事項を細かく言ってほしかった。
3. 江上茂雄展で自由鑑賞が5分だった。もう少し長くしてほしい。
4. 小学校低学年の子どもたちにとって、書は少し難しかった。
5. 話をする際には、生徒に顔を向けて口の動きもしっかりと見せてくれるとなお良かったです。
6. 案内や説明は大変にくわしく分かりやすくして頂きましたが、児童が鑑賞マナーを守れなかったもので、申し訳ないと思いました。
7. 説明の内に専門的な質問事項が多々ありすぎた感じがします。
8. 熱心な説明は大変ありがたく有効だと思いましたが、少し説明が長いと感じた場面もありました。
9. ゆっくりと観る余裕がなかったです。

4. アンケートの集計結果（教師）と考察

(1) 展覧会の感想について

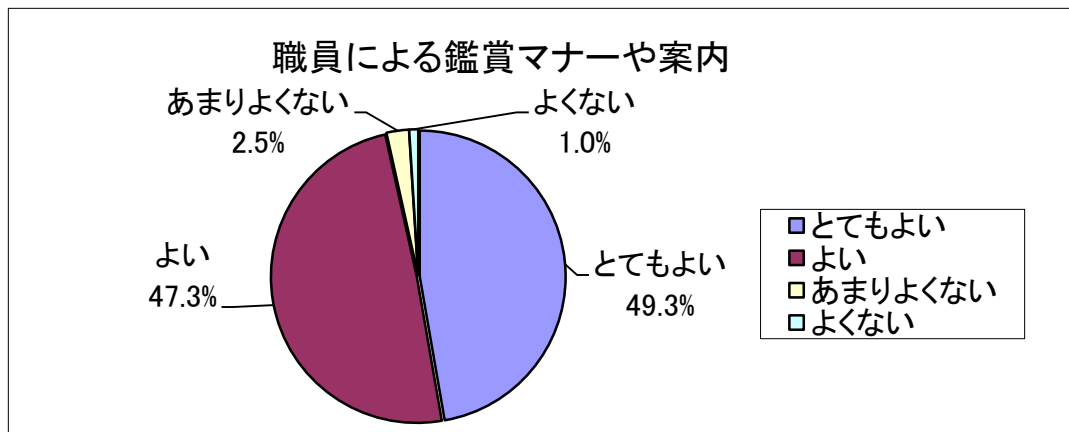


【資料 1 展覧会の感想について】（無回答有）

「とてもよい」「よい」を合計すると、99.0%であり、展覧会はいへん好評であった。児童生徒と同様に教師も絵画や美術作品に直接触れる機会となっており、教師アンケートの感想では、25.の「様々な絵がたくさんあって、子どもたちとのトークがとても楽しかった。子どもたちも思っていることを素直に話してくれて、大人では想像もしないことを言っていたのが新鮮だった。」などに見られるように、美術作品をとおして、児童生徒と共に学習を楽しむとともに児童生徒の新たな一面を発見したり、児童生徒の作品の見方や感じ方を広げたりすることにつながったと考える。

また、コレクション展における福岡県ゆかりの作家の美術作品については、親しみ深く鑑賞することができ、たいへん好評であった。

(2) 職員による鑑賞マナーや案内について

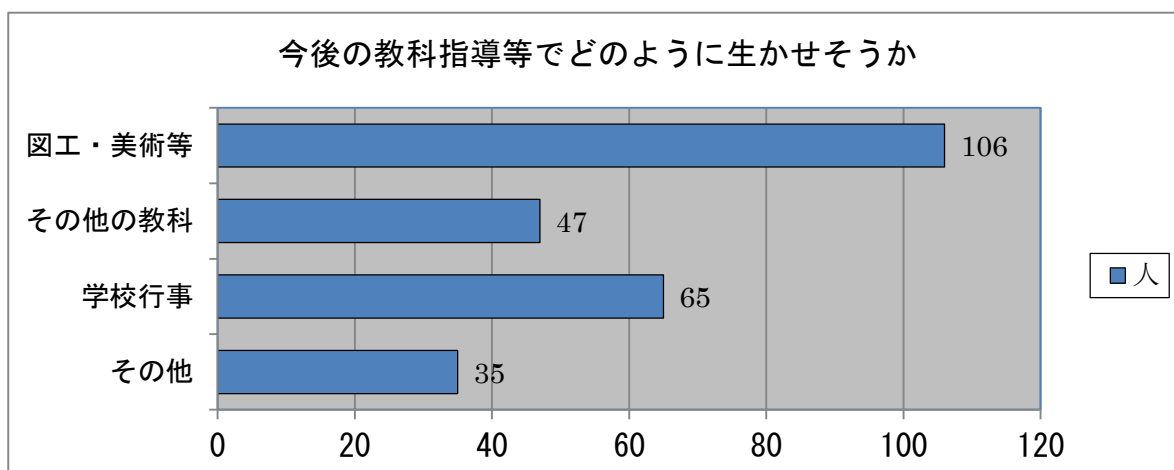


【資料 2 展覧会の感想について】（無回答有）

「とてもよい」「よい」を合計すると、96.6%であった。しかし、昨年と比較すると、2.1 ポイント減少するとともに、「よくない」が 1.0 ポイント上昇した。「あまりよくない」「よくない」は、主として児童生徒の引率人数が多い学校で見られた。これは、児童生徒の数が多いため、一人一人に行き届いた説明や案内などが十分でなかったことや児童生徒が作品に触れてしまったお詫びの気持ちが含まれていると考える。次年度は、午前又は午後の学校の受入れ人数を原則 100 人（本年度は 120 人）までとするように改善を図りたい。

また、特別展の終盤に事業参加された教師アンケートには「他のお客さんと一緒に難しいかと思いました。」とあり、特別展の日程を考慮し、事業実施日を決定する配慮が必要であると考えます。

(3) 美術館での学習を学校で生かすことについて



【資料3 美術館での学習を学校で生かすことについて】（無回答有）

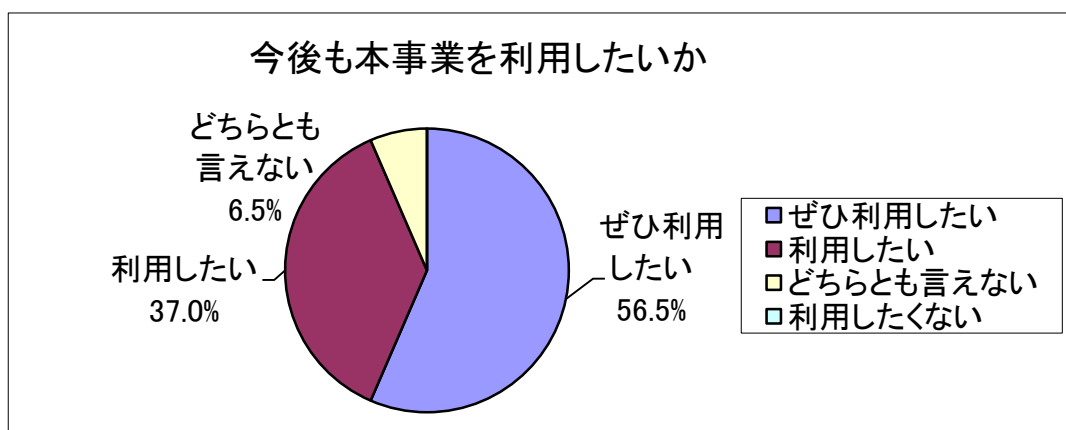
学校行事では、「校外学習におけるマナー」「生徒の感性を磨くことができる」「文化祭等への出品」「学校祭りにおける見学ルール」などに生かせるという感想をいただいた。各学校の学習のねらいや先生方のニーズを聞き取り、3階の貸館日程も考慮し鑑賞プログラムの打合せを行うことが必要である。

その他の教科では、教師アンケートの18.「今後、社会科でフランス革命を勉強するときに、アントワネット展で見たことや作品のことを導入の部分に入れて、この時代の背景を分かりやすく説明できると思いました。」「地域の人物への理解」といった社会科、総合的な学習の時間に生かしたいという意見をいただいた。

また、「意見交流の仕方」や「多面的な見方、考え方、友だちの感覚を受け入れる受容的な態度の育成」からは、各教科などにまたがる言語活動の充実に生かしたいという回答があった。

当館での鑑賞プログラムは図工・美術等に限らず、各教科、領域等の学習や活動につなぐ内容、方法となっていると考える。

(4) スクール・ミュージアム事業の利用希望について



【資料4 スクール・ミュージアム事業の利用希望について】（無回答有）

「ぜひ利用したい」「利用したい」の合計が93.5%であった。昨年と比較し、5.5ポイント減少している。これは、児童生徒の引率人数が多い学校で9.「ゆっくりと観る余裕がなかったです。」など、鑑賞時間の不十分さやと事業日のスケジュールの無理な設定が主な要因であると考えられる。

次年度の採択時にスケジュール設定に無理があるようであれば、事前にスケジュールの見直しなどを伝えることで、充実した鑑賞プログラムを提供していきたい。

VI. 成果と課題

1. 成果

(1) 学校

- ・ 児童生徒の発達段階や実態、学習の目的などを考慮して学校担当者と事前の打合せを行うとともに、鑑賞マナー、美術作品の鑑賞の仕方、展覧会の紹介を作品鑑賞の前に行ったことで、児童生徒が作品を積極的に鑑賞することができた。
- ・ 鑑賞プログラムに小集団活動を取り入れたことで、児童生徒同士が言語活動をととしてコミュニケーションを図りながら作品を鑑賞することができた。また、児童生徒は自分以外の多様な見方、考え方、感じ方があることに気づくとともに、小集団で新たな気づきを共有しながら作品を鑑賞することができた。日頃の学校生活で見られない児童生徒の姿から、教員にとっては児童生徒を理解する機会となった。
- ・ 美術館から遠方の学校や特別支援学校の児童生徒にとって、本事業で美術館に来る機会ができるとともに、往復の経路で他の施設の利用が可能な点も好評であった。

(2) 美術館

- ・ 児童生徒の実態や滞在時間に合わせた鑑賞プログラムを提供できた。また、対象展覧会期間の中盤以降に来館する学校の担当者には、実際に展覧会を鑑賞した上で事前打合せを行ったことで、担当者が積極的に意見を出し、よりよい鑑賞プログラムに修正することができた。
- ・ 作品について児童生徒同士や引率教員と話す小集団活動を多く取り入れたことで、「作品について話を聞いたこと」「作品について友達と話したこと」「作品について先生と話したこと」が楽しかったと答えた児童生徒が昨年よりも増え、作品に対する見方、考え方の違いのおもしろさに気づき、児童生徒の作品鑑賞の楽しさにつなげることができた。
- ・ 県立美術館のホームページリニューアルに合わせて、学校関係者に児童生徒の活動の様子や平成26年度の募集要項をホームページで知らせることができた。

2. 課題

(1) 学校

- ・ 担当者以外の引率教員が鑑賞プログラムの内容や趣旨を十分理解できていなかったり、美術館における活動の留意点を把握できていなかったりすることがあり、プログラム実施案を事前に送付しているが徹底できなかった。引率教員が十分理解した上で実施できるように、事前打合せに複数で来館してもらうことや引率教員に事前に読んでもらうプリントの作成を考える。
- ・ 作品を鑑賞する時間を十分に確保できない学校があった。時間確保が十分でない学校には実施対象選考後に連絡をとることが望ましいと考える。

(2) 美術館

- ・ 今後の教育普及活動におけるスクール・ミュージアム事業の位置づけを明確にし、過去来館した学校には、発展的な鑑賞プログラムを提供することも考える。
- ・ 主として児童生徒数が多い学校で職員による鑑賞マナーや案内の評価が低かった。受入れ人数を原則最高で100人までとし、児童生徒に行き届いた説明や案内ができるようにする。
- ・ 当館の滞在時間はおよそ2時間必要であることを平成26年度募集要項に記載するようにする。

(3) 事業

- ・ 事業の内容を周知するちらしを12月に市町村をととして各学校に配布したが、ちらしが担当の先生まで届いていない学校があった。事業の周知方法を再考する必要がある。

VII. 事業実施校一覧

平成25年度 スクール・ミュージアム事業実施状況

小学校

	学校名	地区等	学年	児童 生徒数	引率数	実施日			展覧会	実施内容			
										マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学
1	小郡市立味坂小学校	北筑後	4	23	2	6月11日	火	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
2	小郡市立立石小学校	北筑後	4	28	2	6月18日	火	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
3	嘉麻市立稲葉西小学校	筑豊	4	100	6	6月21日	金	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
4	八女市立筑南小学校	南筑後	6	30	2	7月18日	木	午前	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	●
5	久留米市立下田小学校	北筑後	6	30	2	10月29日	火	午前	江上茂雄展	●	●	●	●
6	小郡市立御原小学校	北筑後	1・2	41	6	10月29日	火	午後	江上茂雄展	●	●	●	
7	行橋市立椿市小学校	京築	5・6	27	4	11月15日	金	午前	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●	●	●
8	福岡市立賀茂小学校	福岡市	5	83	4	12月5日	木	午後	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●	●	●
9	小郡市立東野小学校	北筑後	4	50	4	12月6日	金	午前	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●	●	

計 412 32

中学校

	学校名	地区等	学年	児童 生徒数	引率数	実施日			展覧会	実施内容			
										マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学
1	八女市立南中学校	南筑後	3	74	6	5月30日	木	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
2	北九州市立則松中学校	北九州市	2	176	9	5月31日	金	終日	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
3	小郡市立小郡中学校	北筑後	3	101	6	6月12日	水	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
4	遠賀町立遠賀南中学校	北九州	1・2・3	131	16	7月9日	火	終日	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	
5	直方市立植木中学校	北九州	2	81	7	7月11日	木	午前	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	
6	みやこ町立勝山中学校	京築	1・2・3	14	4	7月24日	水	午前	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	
7	春日市立春日北中学校	福岡	1	125	8	10月30日	水	午後	江上茂雄展	●	●	●	
8	福岡県立輝翔館中等教育学校	県立	2	116	5	10月31日	木	午前	江上茂雄展	●	●	●	●
9	飯塚市立幸袋中学校	筑豊	1	71	4	12月3日	火	午前	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●	●	●

計 889 65

高等学校

	学校名	地区等	学年	児童 生徒数	引率数	実施日			展覧会	実施内容			
										マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学
1	伝習館高等学校	県立	定時制1・2・3・4	17	10	6月1日	土	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
2	大川楠風高等学校	県立	定時制1・2・3・4	27	7	6月7日	金	午前	アントワネット展・コレⅠ(はるか)	●	●	●	
3	三池工業高等学校	県立	定時制1・2・3・4	24	13	7月6日	土	午前	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	
4	明善高等学校	県立	定時制1・2・3・4	72	12	7月12日	金	午後	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	

計 140 42

特別支援学校

	学校名	地区等	学年	児童 生徒数	引率数	実施日			展覧会	実施内容			
										マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学
1	直方養護学校(高等部)	県立	3	51	21	7月10日	水	午前	コレⅡ(坂本繁二郎)	●		●	
2	築城特別支援学校(中学部)	県立	1・2・3	45	19	7月17日	水	午前	コレⅡ(坂本繁二郎)	●	●	●	
3	久留米市立久留米特別支援学校(中学部)	北筑後	3	9	5	11月1日	金	午前	江上茂雄展	●	●		
4	久留米市立久留米特別支援学校(高等部)	北筑後	3	25	10	11月29日	金	午前	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●		
5	福岡県立田主丸特別支援学校(高等部)	県立	1～3	14	18	12月4日	水	午前	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●		
6	特別支援学校北九州高等学園	県立	3	51	15	12月11日	水	午前	コレⅢ(美を寿ぐ)	●	●		

計 195 88

	児童 生徒数	引率数
合計	1636	227

平成25年度 スクール・ミュージアム事業
アートコース活動記録

発行日：平成26年3月

発 行：福岡県立美術館

〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1（須崎公園内）

電話：092-715-3551 FAX：092-715-3552

ホームページ：<http://fukuoka-kenbi.jp/>